

8. メロン

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1*	キノンドー水和剤40	散布	収穫10日前まで	5回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
1	トップジンMペースト	塗布	発病初期(但し、 収穫21日前まで)	1回	
M10	モレスタン水和剤	散布	収穫3日前まで	10回以内	

・殺菌剤(参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫3日前まで	5回以内	
NC	ハーモメイト水溶剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類
9	フルピカフロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	
M7	ベルコート水和剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
19	ポリオキシンAL水溶剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
3	マネージ水和剤	散布	収穫前日まで	4回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫前日まで	4回以内	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	エルサン乳剤	散布	収穫3日前まで	4回以内	
1	スプラサイド水和剤	散布	収穫3日前まで	2回以内	
-	プリファード水和剤	散布	発生初期	-	野菜類 (施設栽培 ただし いちごを除く)
1	マラバッサ乳剤	散布	収穫前日まで	3回以内	

・殺虫剤(参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤー顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで(但し露地栽培については着果後の使用に限る)	3回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	植穴又は株元土壌混和	定植時	1回	
20	カネマイトフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
6	コロマイト乳剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫前日まで	5回以内	
21	ダニトロンフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
4	ダントツ水溶剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
4	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和	定植時	1回	
20	マイトコーネフロアブル	散布	収穫前日まで	1回	
1	マラソン乳剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
つる割病 (F)	定植前	1. 土壌消毒及び床土消毒を行う。薬剤で消毒する場合は、土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。 2. 抵抗性台木に接木する。	1. 激発地では、5年以上休栽する。 2. 発病畑の茎葉、敷わらなどは焼却する。
	生育期間	1. 発病株は、早期に抜き取る。	
べと病 (F)	育苗期間～ 生育期間	1. キノンドー水和剤40の800倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ランマンフロアブル 1,000～2,000 倍液、又はアミスター20フロアブル2,000 倍液を散布する。	1. QoI 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
つる枯病 (F)	6月上旬 ～7月中旬	1. トップジンM水和剤 1,500 倍液を散布する。 2. 被害初期に病患部を削り、トップジンMペーストを塗布する。 [参考農薬] 1. ダコニール1000、ベルコート水和剤の1,000 倍液、アミスター20フロアブル2,000 倍液、ポリオキシンAL水溶剤1,000～2,000 倍量のいずれかを散布する。	1. 株元に薬剤がよくかかるように散布する。 2. ベルコートは、ばらに対して薬害を生ずるので、かからないようにする。また蚕毒に注意する。 3. QoI 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
うどんこ病 (F)	7月下旬 ～10月中旬	1. モレスタン水和剤3,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ハーモメイト水溶剤 800～1,000 倍液、ベルコート水和剤、マネージ水和剤の1,000 倍液、アミスター20フロアブル2,000 倍液、ポリオキシンAL水溶剤1,000～2,000 倍液、フルピカフロアブル 2,000～3,000 倍量のいずれかを散布する。	1. DMI 剤 (マネージ) は連用しない (耐性菌)。 2. ハーモメイトは残効性を有しないので、直接病斑部分に十分かかるよう散布し、散布間隔は5日位とし、2～3回連続散布する。 3. ベルコートは、ばらに対して薬害を生ずるので、かからないようにする。また蚕毒に注意する。 4. フルピカはおうとうにかからないようにする (薬害)。 5. QoI 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
炭疽病 (F)	6月～ 収穫期まで	1. キノンドー水和剤40の800倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ジマンダイセン水和剤400～600 倍液を散布する。	

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	定 植 時	[参考農薬] 1. アドマイヤー 1 粒剤、又はベストガード粒剤を株当たり 1～2 g 植穴土壌混和する。	
	生 育 期 間	1. 施設栽培では開口部を防虫ネット (0.8mm 目合い) で被覆すると侵入を軽減できる。 2. エルサン乳剤 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. スミチオン乳剤 1,000～2,000 倍液、マラソン乳剤 2,000～3,000 倍液、ダントツ水溶剤 2,000～4,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤 8,000 倍液、アドマイヤー顆粒水和剤 5,000～10,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 発生初期に防除する。 2. 葉裏に薬液が十分かかるように散布する。 3. ダントツ、モスピラン、アドマイヤーは蚕毒に、エルサンは魚毒に特に注意する (特別指導事項参照)。 4. アドマイヤー、ダントツはミツバチ、マルハナバチへの影響に注意する。 5. アドマイヤーは露地栽培については着果後の使用に限る。
ハダニ類	生 育 期 間	[参考農薬] 1. コロマイト乳剤、マイトコーネフロアブルの 1,000 倍液、カネマイトフロアブル 1,000～1,500 倍液、ダニトロンフロアブル 1,000～2,000 倍液のいずれかを散布する。	1. コロマイトは蚕毒及び魚毒に、ダニトロンは魚毒に特に注意する (特別指導事項参照)。 2. サンマイト、ダニトロンは蚕毒に注意する。
ミナミキイロ アザミウマ	生 育 期 間	1. スプラサイド水和剤 1,000 倍液、マラバッサ乳剤 1,500 倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤抵抗性発達を回避するため、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。 2. マラバッサは魚毒に特に注意する (特別指導事項参照)。
オンシツ コナジラミ	発 生 初 期	1. プリファード水和剤 1,000 倍液を散布する。	1. プリファードの使用方法和注意事項については、「1 野菜類」のコナジラミ類の項を参照する。
ネコブ センチュウ	定 植 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	